

◎お盆の8月15日過ぎあたりから毎日夕方に曇り空になる日が多い。35度を超える日が続きとても昼間の時間に河原にはいけない。昼飯前後に、「ちょっとスーパーに食料品の買い物に行くか」と着替え、家を一歩出たとたん、痛いような直射日光が肌にあたる。自転車をこぎ出し数分もすると、熱気が襲ってくる、身体からも熱気が湧く、「こらあ 20分 30分 自転車をこいでいたら 倒れるぞ」とすぐに店に入る。食料品の店は一年中涼しい、食料品が傷まないためだと思うが今の季節、この涼しさが心地いい。

◎この極暑を避けるために毎日晚飯を食ってから河原に向かう。最近7時前に暗くなりかけるが今日はまだ6時過ぎなのにやたら薄暗い、「なんで 降るのかな」とスマホの雨雲レーダーを見るがその影はない、「こらあ大丈夫 いけい」と河川敷を駆け始めた。いつも空模様が怪しい時には人出が少ないが、今日は皆さん安心しているのか10人ぐらいの人出があった。3ぶんの2ぐらい来た所でぼつりと来たが、「大丈夫だろう いまさら戻れないし」とそのまま進んだがポツリがさわさわになり、じゃじゃっときた。「ええい 濡れるな いやだね」とそのまま進んだ。犬の仲良し同志が、「いやだ 雨雲レーダー 確認したのに」「いえいえ すぐにやめますよ この雨は」と笑っている。それから降りは本格的に、じゃじゃじゃである。まもなく折り返し点、いつも体操をする所の手前の橋の下で雨宿りをした。橋からの雨水の排水が太い樋を伝ってドボドボ流れ落ちてくる。橋の下で乾いたところで、いつものストレッチを始めたが、今まで乾いた地面がたちまち濡れてくる。「あれれ すごい勢いだねえ」今日は新品の靴の二日目だが、びしょぬれだ。スマホの雨雲レーダーを見ると、どうもオレが強烈雨雲の真ん中あたりにいるらしい、「ええい こらあ ちょっとや そっとで やむまい」いささか小ぶりの時の走りだした。小ぶりと思ったが、また、ざざざ、シャツは濡れて風で寒い、地面には水が溜まり、ざっぶんざっぶん状態、これが山の中だと徐々に冷えて遭難だ。河原ではこの寒さも小1時間我慢すれば家に到着、風呂にザブリ入れば爽快になる、アウトドアとはいえ家の近所は少々むちゃもなんのその、「いってまえ～」である。

◎車の名義変更を終え、帰ってこれを書いている。Kさんから車もらった時点で、車検と名義変更があるぞと覚悟していた。今朝の10時にホンダから、「車検証が上がってきました」と連絡があった。今日は月末、明けて来週になれば月初め、「こらあ どっちにしても混むが ややこしい儀式 さっさと済ませてしまおう 少々時間がかかっても さっさがいい」と決めていたので、11時半ごろに箕面のホンダへ車検証を取りに行った。箕面からそのまま進んで寝屋川に向かった。12時半過ぎに運輸局に着き、駐車場を探した。昼飯時で駐車場は歯抜けがたくさん在りすなり停められた。「ええと どこにいけば」とまず正面の大きな建物に入った。昼飯時とはいえ50人ぐらいの人がいる、車屋のつなぎ服を着たおっさん、代書屋風のおっさんねーちゃん、オレのような素人風の老若男女、さまざまである。先日来ネットで調べると、「あらかじめ書類を書いて それを携え 相談コーナーに 行け 素人は この相談を お勧め」新所有者と旧所有者の印鑑証明、車検証、譲渡証明書、委任状、10枚たらずの書類がいる、しかも実印の押印が必要である。それらの書類をもって相談コーナーに行くと、「大体 できてます 500円印紙を買う こことここを書く ここに名前と印鑑 これらを隣の窓口に提出すればいい」てなことで箱の中に提出し、5355番の引換札をもらった。時間がかかるのはわかっていたので、「ナンプレ」を用意していた。まわりの人がざわつくので、途中ですべてをケシゴムで消し再度始めた。1時間たっても順番が来ない、「ええ まだかな」と立って順番札のところで調べたがまだのようである。こんなことを3回ほど繰り返し、その度にナンプレを再開した。今日の問題もなかなか手ごわい、雑音の中1時間たっても解決しない。こらあ最後の手段、AかBかでAを選んで進み始めたが、10分ほどして行き詰った。こらあAじゃなくBだと再開した。Aでは間違っていたので、Bでやる時は堂々と大きく数字を入れた。これも雑音のなか一筋縄ではいかないが、20分ほどすると完成した。これが完成するとほっである、鉛筆と消しゴムをしまい、荷物をもって雑踏のなか右へ左へ、どうも順番が近づきつつある予感。12時半について車検証をいただいたのは3時頃だった。府税事務所へ、と言われそこに行くと書類を書かされ、「ハイ ごくろうさん」で終わった。午前11時に家を出て、4時頃に帰ってきた、半日仕事はやっと終わって安堵のキミ。

◎今日は8月最後の日、しかも日曜日、朝7時50分着の電車で北小松駅にやって来た。まもなく9月というのに猛暑で連日37度である。半月前に来た時は曇り空で涼しいと思ったが、今日は朝から陽が照り林道歩きもじりじり模様である。電車のホームでは登山の人が一人降りてきた。聞くと沢に入るようだ、年も15歳ほど若く元気そうである。

◎「2階は灼熱地獄ですよ 夏には2階に あがりません」とどなたかが言っていたが、オレはその2階に常駐している、換気扇を回し扇風機を回しているが、温度計が37度を指すころは何もしたくなくなるぐらいに体力がなくなる、だれる。

◎9:15 涼峠にやって来た。途中、「えええ こらあ あかん 今日は ひょっとして 引き返し・・・」と思うぐらいに体力が無い。前々回は体力も充分、これを100とすると、前は80、今日は50かな、途中で何度か止まってゼーゼーは一は一になった。

◎賑やかな団体が登ってきた、オレンジ色のそろいの服にヘルメットを被っている、若い連中が大汗かいてゼーゼー言っている。「ツアーかな 沢のツアー・・・？」オレンジ色の背中に“滋賀県消防局”と書いてある。その団体に交じって3人ぐらいのシャツ姿の爺さんがいた。どうも仲間のようだ、「消防08かな」道案内をしているようだ。「どこまで」「釈迦から 比良駅の予定 ただ ばててるので 途中 引返し・・・」「そらあ 気をつけて わしらはここまで 遭難しても 助けられん」「水は・・・」「2リッター」「ぎりぎりカモ 歳は」「78だよ」「そらあ 山 やめな あかん 歳だあ わし 83 やけど」ジジイと言えども背中が分厚い元氣印だった。イン谷口あたりの降りた時、パトカーと消防車を何度か見かけた。山の遭難は消防署の管轄なのかな。武奈ヶ岳のてっぺんまで登っていた二人連れに、行方不明の人のことを聞かれたこともあった。

◎10分ほど休憩してパンと水を飲んで歩きだした、多少元氣が出てきた、気温も3度ほど下がったのか風が涼しい。「お きのこ」「やあ また きのこ」白い丸いもの、白く広がったもの、茶の大きなもの、大きな傘が茶とクリーム色のツートンカラー、おそらく毒キノコなのでいい表現ではないかもしれないが、パテシエさんが喜びそうな形と色、絶妙な色塩梅である。次にオレンジに近い黄色のヘラヘラ菌、キノコなのか粘菌なのかこれなかなかキレイ。季節的にキノコの季節かも知れないね。

◎10:30 これから登りという所、鞍部の終わりで2本目を取っている。ヤケは水だけ飲んで通過、ちょっと下って平らなところ、少し上り坂でこれからの登りがフーフーは一は一である、「どうぞ 登り 切れますように」樹林帯の山だけれど隙間がある、そこは直射日光の世界、こいつにあたると体力半減だ。

◎11:50 ヤケオ山到着。帰ってこれを書きながら聞く IC レコーダーの声がか細い、我ながらこれを聞くとしんどそうと同情してしまう、まことにたいや一ど。

◎12:40 釈迦岳到着。IC レコーダーの声がヤケオの時よりは張りがある、「疲れた つかれた」と言っているが、「まだ 大丈夫そうやね」という雰囲気である。ここで前回同様カメラを置きタイマーで自撮りを2枚、証拠写真でもあるまいが、たいや一ど記念である。半月前は8月とはいえ、「涼しい」と感じたが、今日はずっと熱い、高度が高くなっても熱さは地上と変わらない、やだねえ。

◎昼飯が終わった、野菜炒めのおかずと市販のおにぎりを喰った。2リットルの水がどんどん減っていく、今日はぎりぎりかもしれない。1時に下り始めた、疲れているのでゆっくり下ろう、2時間弱で林道に出る、5時でもまだ明るい、まだまだ楽勝時間である。ここの下り道はまったく上りの無い下り道なのでらくちんである。

◎2:15 途中のリフト駅付近、大きな樹の下で一本取ったが、なんと向こうを見ると降っている、ちょっと降っているのだからザックカバーを出したが木の下は雨宿りができ濡れてこない。

◎左側の琵琶湖から大きなエンジン音がぶんぶん聞こえる。水上ボートが20匹ぐらい白い波紋を広げている。皆さん自前のボートを車でけん引してここで遊んでいるのだろうね、ぶんぶん。

◎3時ちょうどにリフト駅の林道に出た。「え ケモノが 座ってるの」「なんだ 木の根っこか」笑っちゃうね。タオルで身体を拭き濡れた服を着替えさっぱりした。前回より1時間余分に時間がかかっていた。

◎絵を床に置いている、その絵を見ながら考える、“次の一手”という奴である。「いやあ こらあ アカン 立て掛け なくっちゃ」絵を起こし壁に立てかける。絵は立て掛けて見つめるとよくわかる、床に寝かしてみると違う、なんていうけれど、寝かしたり横向けたり鏡に映したり様々苦労して“いい絵”を目指すという塩梅である。アトリエは大きく贅沢な空間であるが長い間使ってきた、その間にたくさんの絵とか額とかが山積みになって来て、壁のまわりが1メートルずつ荷物が占領して壁まで近づけない、近づけないので積んであるモノたちに立て掛けるという情けない状態だ。

◎絵を長らく眺め、頭の中でシュミレーションが湧きあがってくるのを待っている、あそこにこの色を入れ、ここを消し、なんて想像する。この想像が湧きあがらない時はその絵は横において手を入れないことにする。次の一手が湧きあがらないままに手を動かしてしまうと情けない結末が待っているというのは当然だけれど、若いころはこれさえわからなかった。わからないままに、考えがまとまらないままに絵の具を出し筆を握って、ぼうっとしたままで筆を動かしたところでこれは絶対にダメである。

◎最近、熊の話で世間が騒いでいる、ニュースでヒグマに襲われ死亡した人の話が出ていた。北海道に居るヒグマは人を餌として襲う可能性がある。本州のツキノワグマは襲われてもせいぜい大怪我をさせられるぐらいで、死亡事故や、食われたという話はあまり聞かない。オレはドーベルマンやシェパードのような大型犬が襲ってくると怖いと感じる。ほんとうは熊の方が攻撃力は強そうだけど、目の前でぱったり会ったとか、遠くから突進してくるなんて経験はないので、熊の恐ろしさが身体でわかっていない。

「絶対 熊スプレーを持つべきです 腰に差し いつでも発射できるように 供えておくべきです」

「このあたりには熊は居ないよ そんなに怖がらなくても 大丈夫」

先日マタギの人の話を本で読んだ。昔のアイヌ民族にとってヒグマは食料品、御馳走だった。東北地方、特に秋田のマタギは麓に家があるも山の中で寝泊まりして山の獣や山菜を採って生活していた。山の獣は食料で、特に熊は糞以外捨てる場所が無いほどに貴重な食料であり換金資源だった。

こんことを言っただけで叱られるが、熊の事故は北の方で多いような気がする。蜂が長野県の人を敵のように狙うように、熊も東北人は敵と襲うのかもしれないね。長野県人は昔から蜂の巣を刈って食べていた。

◎ネットで熊撃退グッズが出ている。一般的なものは唐辛子スプレーで、これは 5000 円以上の値段、一回発射すればそれで使い終わる代物だ。山仲間の女性がもっていて、「これ もっといて」と山行中預かったがすぐに噴射する練習でもしなければいざという時使えないなと思った。

それ以外に爆竹の音が嫌いらしく、爆竹発射機なんて売っているが、マッチで火を着け筒を熊に向けるまでに一撃を食らいそうである。瞬時ということではスプレーに利がある。大音量の笛も売っているがどれ位の音量だか知らない。常時笛は持っているが、その音はいささか小さい、おもちゃの笛のようだ。

◎60 歳ごろ澤山さんと木曽駒ヶ岳を登った。電車で伊那方面からタクシーで登山口へ、そこから木曽駒の小屋まで登った。11 月の末、小屋が最終日で、「ビール 飲んで」と大盤振る舞いの日だった。もう少しだという雪の斜面を黒い犬が駆け下りて行った。「おかしいな こんな所に犬がいるわけではないし」と首をかしげていたが考えればそれは熊だった。「クマは なかなか 敏捷だ 犬なみだ」と思った。

◎オレは、熊の目撃は数度ある。いつも遠いところ、雪の中を移動しているのでわかった、という程度である。一度はそばに警察官がいて、「川を渡って来れば 空に向けて鉄砲撃ちますが」と言っていた。

一度はハヶ岳の横岳小屋付近で藪の横を小さい黒いものがガサガサ走って逃げていった。これまた犬のようだったけれど、あの丸い背中が熊の子どもだったような気がする。クマの子がいれば親熊がいる、なんてその時は考えもせず、のんびり歩いていた。この時も澤山グループで、皆さん小屋どまり、オレはテント泊だった。

◎姫路に行ったあくる日にこれを書いておりますが、「暑い もう 9月中旬だよ」今日は、特に湿度が高い、不快指数なんて言葉があったが流行語なのか最近はあまり使わない、まさのその言葉が通りの今。最近は、「命にかかわる危険な・・・」という言葉が流行っている。命にかかわる危険な暑さ、とか、非常に大きい台風、線状降水帯の大雨、なんて言葉が続く。この言葉は気象庁から出ている言葉なのか、ニュースのアナウンサーも同じようにおっしゃる。驟雨というのか、馬の背を分けるというのか、河原で走っている時にこのジャジャブリに会い降ろして二日目の靴がみじめな状態になっている。

◎姫路はね、若いころからの知り合いの“スミちゃん”のグループ展があり、それを見に行った。スミちゃんの絵、色の点描を連ねた絵、なかなか素敵である。昔の絵からガラリ脱却して色を並べるだけ、淡々と置いていだけその連続がスカリとした画面を造り幸せを与えてくれる。いつものことだが他の方のモノを見ないようにしている。他の方のモノを見いってしまうとスミちゃんが霞むから、人間はひとつのモノで満足しなければ、いろんなものを見てしまうと自分自身がいろんな人になってしまう。

◎さあ出発という時に、行先の住所を車のナビを入れ案内開始のボタンを押したが、オレの無知からナビ君は新名神の千提寺 IC を選んだようである。こらあアカンと茨木 IC に入ったがこれまたオレのカン違い。オタオタしながら吹田で降り、中国自動車道に入り直した。車が変わり身障者割引の手続きをしていないので、人のいるゲートを使った。今までの身障者割引は登録した車と登録した ETC カードでしか作用しなかったが、最近の改正で人のいるゲートを通る限り、通行券をもらい出るときにその通行券と身障者手帳を見せ ETC カードで清算できるようになった。これも初めての経験でやってみると人のいないゲートでもカメラがありスムーズに通行できた。

◎姫路とはどのあたり、土地勘の鈍いオレは走りながらだんだんわかってきた。ナビ君ナニを間違ったか、三木東で降りろという。おかしいと思いながらも降りてしまった。三木から姫路まではまだまだ距離がある。三木、高砂、加古川、懐かしい地名が過ぎていくが、地道をゆっくり走った。走りながら、「あれは・・石の宝殿 石切り場・・」「あ この川 加古川だ」「あれれ これは旧街道筋 西国街道かな」「姫路バイパス なにこれ」姫路バイパス、加古川バイパスは半世紀前に国道 2 号線のバイパスとしてつくられ、今は 2 号線となっている。今年は行けなかったが、いつも同道の中尾さんがしきりとこのバイパスを探しておられたが、オレの頭の中でやっと解明できた。

◎30 歳代に知り合った我々、まもなく 80 歳が近づき 50 年の年月がゆったり流れた。一人欠け、二人と続くはず、次回があるのか・・・。オレもこれぐらいの運転ならまだまだ疲れませんが、いつ駄目になるか、急に何が来るやらわからないものである。

◎公民館活動の続きで、茨木と高槻の教室をもう 15 年ぐらい続けている。月に 3.4 回であったが、知人の H さんが倒れピンチヒッターとして、プラス月に 4 回教えに行っている。2.3 年前から徐々に生徒が減り始め、「こらあ 自然消滅も 近いかも」と思っていたが、6 人ぐらいの教室が二つも増えてしまった。昔は 20 人ぐらいの方々がおられ、賑やかに絵を描いていたが、5.6 人の教室になるとさびしい限り、おかねをいただくのも恐縮してしまう。H さんはまだ 63 歳の女性だが脳梗塞で足腰がだめのようなのである。我がアトリエの恭子さんも一年前に脳梗塞で倒れ、徐々に家で小さい絵を描いたりしておられるらしく、家の周りの散歩もゆっくりされているみたい。ピンチヒッターの H さんは家が遠く、電車の駅からそれぞれの小学校に通ってくるのが無理かもしれない。しゃべることができても普通に歩けないのでは、通勤ができない、普通に働けない、これはつらい。

◎今、「暑い あつい」と言っている異常気象、世界的に見て、猛暑の場所、大雨豪雨の場所、サイクロンや熱帯低気圧の場所、少雨・干ばつの場所、豪雪の場所、世界的にさまざまのようです。その他の異常現象として、山火事、海洋熱波（海温上昇）、高潮・・・。

◎さ、ぼちぼち寝ようかと温度計を見るとまだ31度もある。ネット氏によるとこの暑さは10月まで続くというが、数えてみればあと10日ちょっとで月が変わる。ほとんどエアコンに頼らず、クーラーなしの生活を元気に乗り切った。この暑さでじっくりゆっくり画を描くことができなかったが、お前さんには、「じっくりゆっくりはよくない事じゃ」と絵の神様がチャンスを与えてくれているのかも。ただ、若いころのあの澁刺とした感覚が無い、出てこない、ジジイだもんねと軽く考えてしまっはいけないが、感覚の衰えも事実だねえ。

◎夜の河原、真っ暗で何も見えないが、川の傍に行くと鳥が飛び立つ、「お　ごいさん　だな」今まで気にしなかったが、夕方から暗くなる時間帯、大きな鳥が川の近くをうろうろする。夜は蝙蝠がさかんに飛んでいる、ベンチの上で上を向いて足を上げる運動の時には、蝙蝠君があっちゃこっちゃと飛びまわる。今日は天気も良く遠くにいくつか星も見え、北の方の雲のあたりがピカリ、どよよん、光っている。遥か彼方の雷である。雨が降らないね、8月のお盆のころは3度も大雨にあつてずぐ濡れで帰ったがそれ以降夕立ちはないね。スマホが時々、雷雨ですよとピロリ鳴るが、肩すかしばかりである。

- ◎「このくそあつさ いつまで続くんだ」そうぼやいていたが、二日ほど前から涼しくなってきた。7月からずっと愛用していた袖なしのシャツ、「これなしでは この暑さは しのゲン」なんてほざいていた。夜になっても蒸し暑く、朝起きたら汗をかき濡れている寝巻きを脱ぎ、冷感タオルで身体を拭き、その袖なしシャツを着ていた。なんと二日前から朝晩が涼しくなり、窓を全部閉め長そでシャツを出して着た。天気予報では10月まで暑い日が続くとなっていたが、秋が来たようである。
- ◎急に山に行きたいと思いつき、昨夜山の道具を出し食料や水の用意をした。前回は暑さでバテバテで帰った、今回はどうだろう、明日はどんな服装でと思案しつつ同じ袖なしのシャツで出かける用意をした。
- ◎7:50 北小松駅を出発して歩き始めた。袖なしのシャツでは肌寒いが、昼近くになれば暑くなってくるだろうと我慢。電車の中では薄い上着を着ていたが歩き出す前に脱いだ。空は晴れているけれど白い雲が多い、快晴でないで多少真昼の暑さがましかもである。
- ◎9:10 涼峠到着。夏バテがとれた、完全にとれたとは言わないが前回のよう途中でぜーぜーは一は一、立ち止まって息を荒げる場面もなく足が動いた。歩きながら、身体は重いね、足がだるいね、という傾向はまだ残っている。水を飲みパンを齧った。汗は出ているが袖や腹から入る冷たい風が心地いい。
- ◎北小松駅で3人降りたが、登山客はゼロだ。登山口に車が2台止まっていたが上でまったく人とは出会わなかった。熊情報がさかんに流れているので、大きな音が鳴る鈴を、新たに買った笛を、持って歩いたがもちろん熊には出会わなかった。
- ◎10:10 いつものところ、「鞍部を超えて これからが登りだ」という場所で一本取った。麓の田んぼや琵琶湖が見える、対岸の鈴鹿山系も見える。陽が出てきたが、日向ぼっこをしながら一本取った、日陰では寒いぐらいである。以前のように休憩の度に何かを喰っているという様子が薄れ少食になってきた、そのぶん体力も落ちてきているということなんだろうね。
- ◎「お こんなの 見たことがない これを真似 ケーキを造れば パテシエさん 工芸品もいい 武具の模様もいいかな」感動したのは手のひら大のキノコである。＜アカヤマドリ：高級食材＞
- ◎11:10 ヤケオ山到着。なかなかいいタイムで歩けている、多少足がだるい、身体が重い、まだ涼しくなって二日目だから仕方が無いのかな。尾根道を登りだして、「お すすき」とその初々しい穂先に魅入った。前回来た時にはススキの兆しも、ススキのスの字も見えなかったが、いっぱい居て御座る・・そよそよ風に吹かれてござる。彼らは来年の梅雨ころまで耐えて立っている、今の青々しい穂先が崩れ出し綿帽子になり茎だけが残って雪の中で冬を越すということかな。これを書きながら、ICレコーダーにひゅんひゅん風音が切れる、あまり気付かなかったが、風がきつかったんだねえ、とはいえ吹き飛ばされるほどではなかったが。
- ◎12時前に釈迦岳に到着。どこで飯を喰おうかな、日向か、日陰か、大きな石の上に座り弁当水筒を出し上着を羽織った。いつもの梅干しごはん野菜炒めが美味い。12時10分に出発した。
- ◎1:00 昔のロープウェイとリフトの乗り継ぎ駅跡のコンクリートで一本取った。10回以上はここで乗り降りをしたと思うがどこがどうなっていたのか覚えていない。パンとバナナ、水とアミノ酸を補給。スマホの山地図が、「下山したら なにを食べますか」と聞いてきた。「むむむ 食べたい 飲みたい ないねえ・・」
- ◎元リフト乗り場駅の水場でシャツを脱ぎペーパータオルで汗を拭き着替えた。前回はタオルに水をふくませ身体を拭き全着替えた。今日はさほどではない。駅まで歩き3時23分の電車に乗った。5時前に帰宅。
- ◎下山して駅までの1時間の林道歩きの途中、中年白人男性が追い抜いていった。「山は 楽しいねえ」と笑顔で言ってくれ、笑顔で返した。話そうかとしたがやめた。今もラジオで空海や道元の修行の話を聞いていた。「なんで山に行くの」「山は修行だ」なんて話はよく聞かすが、「オレは違う そんな大そうなものではない 楽しいだけだ 歩くだけだ」山の翌日の朝、身体がつかれている、元気がもらえたとはいいいがたい、まだ夏バテのなごりだね。歩いている最中は、「まだいける 足が動く もう少しで いつものところ やれ～」なんてことなのか。てっぺんに着くと、さっさと飯を食って、さっさと帰ろう、なんてことかな。

下毛野淳行従我門出死人語くしもゆけの あつゆき わがかどより しにんを いだす こと>20 巻-44

◎まだ昼間は 30 度前後の温度計なれど、朝晩が涼しくなり、布団を被って寝る日が続き、夏バテが徐々に解消して、進んでこの文章をやっつけるか、と書いている。

この章を読んで、「おお これは今でもつうじる感覚」とほっとした。今昔文章の最後のしめに、今昔氏の感想が載せられているが、「そらあ 今じゃ 通用しないよ」という所が多い。そのてんこの文章は、「そらそうだ」と相槌の打ちたくなる結末であるように思う。

◎主人公は淳行という役人：舎人（皇族、貴族に仕えた下級役人というが、主人公は、たいそうな名前が付いているので、下っ端の小物ではなさそうな・・。）

◎今は昔、右近将監下毛野淳行という近衛舎人がおった。若いころから人々に信任を集めていた男である。外見をはじめ、乗馬の術は素晴らしかった。朱雀天皇の御代以来朝廷に仕え、村上天皇の御代は、その全盛期で、非のうちどころのない舎人であった。

◎5 月に九州で知り合いになった方、73 歳の方が中米のホンジュラスで暮らしている。その方のメールに“ハチクイモドキ”という南米大陸にいる鳥の話があった。「土の中 1 メートルぐらいの深さから 出入りしている美しい鳥」その鳥の話はさておき、土の中 1 メートルと聞き、自然薯を思い出した。

◎30 歳ぐらいの頃だと思うが、ヒゲさんが、「展覧会をするぞ 身に来てくれ」と連絡をしてきた。「そらあ 行かないかん」新幹線に乗って駆け付けた。彼の作品は 5 メートルぐらいの裸婦像、粘土で作りそれを石膏で造ってある。そんなでっかいものを東京の八王子あたりの里山で展示するという。知り合いの紹介でその土地の持ち主が開催してくれたようだ。吉谷君を誘って現場に行った。多分その日はそのどこかでごろ寝をしたと思うがそこらあたりの記憶はない。

◎「おい みんな その山に ヤマイモを 掘りに行くぞ」とヒゲさんが号令する。何のことかわからずスコップやら手袋やらをもって少し斜面の中には行って行った。彼がそこらあたりの蔓や葉を触って、「岡村 こ

こを 掘れ 大きく掘れ」と地面に線を引く。直径 1 メートルぐらいの円を書いて、「外側から 掘れ」という。土など掘ったことの無いオレ、スコップを使って掘っていった。「まだまだ もっと深く」なんと五右衛門風呂がすっぽり入るぐらいの穴を掘らされた。「ここは 慎重に 無理したら ヤマイモが折れる ゆっくり」中に獲物のいる気配、オレもせっかくここまで発端だからと、それからは腫れものでも触るようにゆっくり手で搔き分けていった。出てきたのはくねくね牛蒡のような細い獲物、ほんまモノの自然薯が姿を現した。

◎ヤマイモ：古来から日本では芋と言えはこのヤマイモ：自然薯のことを言うらしい。中世になって中国からサトイモなどがやって来て、イモからヤマイモに改名されたらしい。ヤマイモ、ヤマノイモ、自然薯は呼び名が違えども同じものらしい。